

交通機関

ア．バス

スリランカで交通手段としてもっとも発達しているのがバスです。路線が細かい網の目のように発達し、コロンボだけでなくスリランカのすみずみまで行き渡っています。今では、バスで行くことができない町はほとんどありません。料金はとても安く、本数も多いのでスリランカに住む人々の生活の足として、もっとも重要な乗り物になっています。それだけに車内はいつも混雑しています。

バスには2種類あり、CTBバス（**国営**）と**民営**バス（**プライベートバス**）に分けられます。

ペッターのバス停



イ．タクシー

3輪のバイクにほろが付いたタクシーをトライショー、スリーウィーラー、またはトゥクトゥクと言います。日本人は製造元の名前であるバジャージという呼び方をしている人が多いです。

バジャージはインドで生産され、スリランカ国内で使用されています。混合ガソリンを使用するタイプと軽油を使用するタイプの2種類があります。タクシーと言ってもメーターはなく、料金は

交渉こうしょうで決まります。

また、日本で見られる普通乗用車ふつうを使うタクシー会社もいろいろあります。日本のように車内りょうきんに料金メーターがついていて、走行距離きょりに応じて運賃うんちんが表示ひょうじされます。

* ガソリンスタンドは各地かくちに多くあり、日曜日えいぎょうも営業しています。レギュラーガソリンの価格かかくは1リットル93ルピーです。(2006年7月げんざい現在)

スリーウィーラー



普通乗用車のタクシー



ウ．鉄道

スリランカにおいて、鉄道は必ずしも便利な交通手段とは言えません。なぜなら路線はまだまだ未発達で便数も少ないからです。

しかも、その路線のほぼすべてに沿って、バスの行き来する幹線道路が整備されています。スリランカの鉄道はすべて政府によって運営されていて、コロombo・フォート駅を起点に国内各地へ放射状に延びています。現在も鉄道の敷設工事が行われています。

鉄道の長所は、混雑するバスに比べて交通渋滞の影響を受けないので、時間の計画を立てやすいことです。

現在の鉄道はディーゼル駆動です。1998年、スリランカ政府は鉄道を電化する決定をしましたが、今のところその見通しはたっていません。電気駆動になれば、海外からの輸入に頼らずに燃料の国内供給が期待されます。また、エンジンからの排出ガスによる大気汚染などの公害も解消されます。しかし、電力自体が不足しているので、実現は難しい状況です。

この電車制度を始めるために、カナダなどの経済的に発展している国々からお金を借りることになっています。



駅の様子 (左：ヌゲゴダ駅 右：フォート駅)